



# 貴志川線の未来を“つくる”会

http://kishigawa-sen.com

会報 第1号  
2005年2月28日

発行：貴志川線の未来を“つくる”会  
和歌山市伊太祈曾558(伊太祁曾神社)TEL073-478-0006

発行者  
濱口晃夫

## 運動実る! 貴志川線存続へ大きく前進

### 県・市・町が財政支援を決定

貴志川線存続問題について県と和歌山市、貴志川町は2月4日、初期投資や赤字などの財政支援の負担割合について合意し発表しました。行政が財政支援を決定したことで鉄道存続の第一歩が踏み出されたことになり、和歌山市および貴志川町において、鉄道事業を行う民間事業者の公募がおこなわれることになりました。

私たちの求めていた貴志川線の存続は、ひとつの山を越え大きく前進しましたが、これからも課題がたくさんあります。存続を実現させるために、さらに取組の強化を図っていかねばなりません。

#### 負担割合、合意内容

##### ■県・市・町の間で合意した内容

##### 1、負担内容

- ① 初期投資→県の負担とする。

(用地取得費)

鉄道用地は和歌山市及び貴志川町が取得するものとし、その全額を県が和歌山市及び貴志川町に対し、補助金として支出する。これについて、今後南海電鉄と協議することになる。

(2億4千万円を見込んでいるが、南海との交渉で変更もありうる)

- ② 施設整備→県は将来、変電所設備の大規模改修の必要が生じた場合、2億4千万円を上限として、その経費を負担する。

- ③ 運営費→鉄道の運行に関わる10年間の運営費補助(欠損補助)については、和歌山市、貴志川町が負担する。

10年間の運行にかかる運営費の赤字補填は、5者(近畿運輸局、県、市、町、南海電鉄)で行った「上下分離方式」によるシュミレーションの10年間の合計額8億2千万円として、沿線人口や駅数から、和歌山市が65%、貴志川町が35%の割合で負担する。

なお、それぞれ10年間の債務負担行為を設定する。

また、可能な限り住民等民間の協力を得る。

##### 2、今後の取り組み

県の協力を得て、市と町で民間事業者を募る。

#### 運営会社の公募を実施

和歌山市と貴志川町は、負担割合の合意を受けて、事業運営主体となる民間事業者の公募を行います。

大橋和歌山市長によれば、7社から引き受けの打診があったと明かし、打診の7社は全国からで交通運輸関係の業者が多いが、鉄道事業者ではないということである。

南海電鉄の撤退は9月30日となっており、引き受けに時間が必要な場合は、南海電鉄に撤退時期を延期するよう求める方針であることも明らかにしました。

#### 運営は上下分離方式で

新会社による経営は、いわゆる「上下分離方式」で行われることとなりますが、「上下分離方式」とは、土地、線路を保有する会社と、電車の運行(鉄道輸送事業)のみを行う会社とに分離して、運営を行う方式です。

この方式は、輸送会社は諸税、減価償却の負担を免れ、一番赤字が少なくなる経営方法です。

# “つくる”会の歩み



’04.12.11「住民フォーラム」800名が参加



’04.9.7 市・町主催の「シンポジウム」で入会訴え、この日だけで200人が入会



’04.10.3 存続への確信深めた「学習会」200名参加



’04.12.26 駅前通り商店街イベントへ展示参加



’04.11.29 近畿運輸局浜口代表意見陳述、傍聴



’04.12.4 JR和歌山駅でのチラシ配布行動

## 「貴志川線の存続」訴え

学習会・議会請願・傍聴・フォーラム  
宣伝活動・要請行動



’05.1.30 県環境フォーラムで展示、入会行動

### 貴志川線存続・財政支援の正式表明を和歌山市、貴志川町に申し入れ、協議行う

「貴志川線の未来を“つくる”会」は、和歌山市、貴志川町に、①貴志川線の存続を正式に早期に表明すること。②財政支援について、県・市・町の負担割合など合わせ正式に決定すること。③「南海貴志川線対策協議会」の整備を行い、住民団体も参加できる新組織を早期に立ち上げること。を申し入れ、協議を行いました。

#### 貴志川町

貴志川町については、1月19日浜口代表以下三役が中村町長と面談し、3項目を中心に鉄道として存続するよう強く求めました。

中村町長は「町としては鉄道として残す、財政支援も行うということで積極的に市、県にも働きかけ取り組んで行く」。

また、対策協議会については、今後は貴志川線存続を目的とする会としていかなばならない。これからは、貴志川線を利用して貴志川町に来てもらう方策も考えて行きたい。との回答もいただきました。

#### 和歌山市

和歌山市については、1月27日浜口代表ほか5名の執行部が、青木企画部次長に面会し、同様の申し入れを行いました。和歌山市側からも「鉄道存続が一番財政負担が少なく、交通政策上も最善と考えている」「財政支援の分担割合の協議中である」「存続の正式表明は、関係行政機関と連日協議を行っており、早急にまとめ2月議会に提出したい」との回答を得ました。

この経過を受けて、2月4日、知事・市長・町長が三者協議を行い、負担内容合意にいたしました。

## 会員5,600名を突破 運動前進に大きな力

昨年9月5日20名で発足した「貴志川線の未来を“つくる”会」の会員は、半年で大きく発展し2月19日現在で**5,685名**となりました。

貴志川線を鉄道として残したいという住民の強い意思が、わずか半年で大きな組織拡大を成し遂げたもので自治会や、学校など各団体の協力と、会員の積極的な取り組みの成果です。

この5,685名の声が、行政を動かし今回の財政支援を決定する大きな力となりました。

行政の財政支援の決定は、貴志川線存続のための大きな一歩を踏み出したものですが、新たな事業者による運行開始までには、まだまだいくつもの山があると考えられます。

存続を確定し「未来へ走る貴志川線」を実現するために、もっともっと多くの住民に呼びかけて、会員の拡大に取り組みましょう。

## 協力して貴志川線存続を 住民・団体が大同団結

廃線のタイムリミットが9月末に迫ってきていることから、存続の取り組みを強化するため、様々な立場の人が大同団結して、「貴志川線存続に向けた住民会議」を結成し、1月22日夜、和歌山市のビッグ愛で「貴志川線の未来を“つくる”会」はじめ、7住民団体、行政や議会や学校関係者、個人、約70人が参加し、勉強会を開催しました。

和歌山大学辻本助教授、和歌山高専伊藤助教授を中心にまとめられた「貴志川線存続に向けた市民報告書」に基づき、伊藤、辻本両氏が鉄道存続とバス転換を比較し、「鉄道の方が年間約14.8億円の社会的利益がある」と研究結果を報告。

討論では、基金の設立や利用者増など多くの意見が交換され、事務局を担った「貴志川線の未来を“つくる”会」の吉田事務局長が「更にネットワークを広げ、一致団結して貴志川線存続を実現したい」とまとめを行い会を終えました。

# 大きく広がる貴志川線存続の声

## さらに取り組みの強化を

貴志川線の未来を“つくる”会  
代表 濱口 晃 夫

本会の活動のためにいつもご尽力、ご協力をいただきまして感謝いたします。

お蔭で沿線住民は勿論、県内各地、また他府県の方々からもご支援・ご入会をいただき、会員数は5,600人を超える数となりました。

ご承知の通り、去る2月4日木村知事が記者会見し、貴志川線を鉄道として存続させるための、第一歩が踏み出されることとなりました。しかし、公募をして新しい形態での運行のためには、これからまだまだ超えなければならない山がいくつもありますので、私たちは存続を実現させるために、更に取り組みの強化を図っていかねばなりません。

「乗って残そう貴志川線」の合言葉のもと、利用促進の取り組みを深め、貴志川線が鉄道として存続されるよう共に頑張りましょう。

### 会計中間報告

2004年9月5日～2005年1月11日

#### <収入の部>

科目	金額	摘要
会費	5,552,000	1,000円×5,552名
雑収入	97,000	寄付金
合計	5,649,000	

#### <支出の部>

科目	金額	摘要
広告宣伝費	447,950	看板、ポスター、ジャンパー
通信費	298,400	ハガキ、切手
消耗品費	230,950	封筒、用紙、名刺等
旅費交通費	178,580	街づくり会議、住民フォーラム
事業費	115,620	住民フォーラム
事務費	20,209	コピー、振込み料
合計	1,291,709	

収入 5,649,000

支出 1,291,709

残高 4,357,291

会計年度は、4月1日～3月31日となっておりますので、今回は2005年1月11日現在の中間報告とさせていただきます。

正式な決算報告は、3月末で行い別途報告いたします。

## 駅長さん募集



つくる会では、地域における“鉄道”と“駅”の存在を見直し、その有効性と利用促進を地域に働きかけることを目的として、無人駅に「駅長(愛称)」と有人駅含めスタッフを置いて、各駅ごと、また各駅が連携しながら、駅の清掃、プランターの設置と世話、会の行動の宣伝等に取り組んでいます。

駅長さん未定の駅は、山東駅、岡崎前駅、交通センター前駅、田中口駅です。

➡なっていたただける方は事務局までご連絡を➡

## お願い

### メールアドレスの登録を

貴志川線情報を会員専用メーリングマガジンで配信しています。メールアドレスの登録がまだの方は、入会申し込み書に記入されたお名前・電話番号とメールアドレスを事務局までメールでお知らせください。 [info@kishigawa-sen.com](mailto:info@kishigawa-sen.com)

※ケータイメールでも結構ですが、できればパソコンメールでお願いします。(HotmailなどのフリーメールでもOK)

## もっともっと 貴志川線に 乗ろう

お花見は  
電車に乗って  
大池遊園へ

## お知らせ

### ■NHK『ご近所の底力』で貴志川線のその後が放送されます■

NHK総合テレビ『ご近所の底力』 3月10日(木)午後9時15分から放送予定  
※番組の内容や放送日は変更になることがあります。

## 利用者拡大へ プロジェクト チーム を設置

会では、今後の大きな課題である利用者増への対策を強化するために2つのPTを設置しました。

- イベントPT 沿線のイベント案内と会のイベント企画を行います。ホームページに逐次掲載します。
- 新生貴志川線 新たな発想に基づく運営、利用者増への企画への提言PT 提案を提言にまとめます。